

たはら 歴史探訪 クラブ 其の64

TAHARA
History Inquiry
Club

渥美半島から消えた
動物たち

吉胡貝塚で縄文時代の出土品の解説をしていたときのこと。「えーと、この骨はイノシシ、これはシカの骨で、吉胡貝塚の人たちはイノシシとシカをたくさん獲っていました。」すると、熱心な方から質問をいただきました。「渥美半島にイノシシやシカがいたんですか?」

何年か前に渥美半島でニホンザルが出没して騒動になったこ



吉胡貝塚から出土したイノシシやシカの骨

とがありますが、野生のイノシシ・シカの生息情報は聞いたことがありません。これらの動物たちはいつからいなくなったのでしょうか。

渥美半島にある縄文時代の貝塚からは、イノシシやシカをはじめ、ニホンザルやホンドテンのほか、今でも生息の情報があるタヌキ・キツネ・ウサギなどの骨が見つかっています。そして、現在の日本では絶滅してしまったニホンオオカミ・ニホンカワウソ・ニホンアシカといった動物の骨までも出土しています。この時代の渥美半島は、彼らが快適に

暮らすことができる豊かな自然環境にあったのです。

天正13年(1585年)と15年(1587年)、徳川家康は、渥美半島で巻狩りを行っています。また、慶長16年(1610年)には、二代將軍秀忠が、大久保、蔵王山、比留輪(芦ヶ池南)、若見などで大がかりな巻狩りを行いました。蔵王山ではシカ247頭、イノシシ22頭、若見ではシカ150頭、イノシシ34頭を捕獲したとあります。当時の最高権力者が行ったものとはいえ、驚くべき数字です。家康や時の將軍までもが渥美半島で巻狩りを行ったといことから、渥美半島にシカやイノシシがいかにたくさんいたかということがわかります。

巻狩りは武士の戦闘訓練にもなるため、田原藩でも頻繁に行われました。その記録では、享保20年(1735年)を最後にシカの捕獲についてみられなくなっています。シカは江戸時代終わりに絶滅したようです。



獣を四方から追い立てて捕らえる「巻狩り」の様子

イノシシについては人里付近でも生活できるため、シカより後まで半島で生息していました。渡辺華山の天保4年の記録には、蔵王山周辺では「原を行き畑を経る。猪のあれたるあと八麦あはれになりて見ぐるし」と、また越戸町では「猪つれひ多ければとて、そこはかとなく小屋をつくりて、夜すがら猪を追ひ鳴り子引なり」と、イノシシの被害とその対策について記されています。しかし、江戸時代終わりには、藩をあげて大々的に巻狩りを行ったにもかかわらず、イノシシは年に数頭しか捕獲されませんでした。そして渥美半島のイノシシは、明治時代以降に絶滅したようです。(増山)

文化財課 23局3531